

## 富山湾における鯨類の記録（2004年）

著者	南部 久男, 田島 木綿子, 新井 上巳, 山田 格, 田中 豊, 大田 希生
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	28
ページ	91-94
発行年	2005-03-25
URL	<a href="http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=820">http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=820</a>

短 報

富山湾における鯨類の記録 (2004年) \*

南部久男<sup>1)</sup>, 田島木綿子<sup>2)</sup>, 新井上巳<sup>3)</sup>, 山田格<sup>4)</sup>,  
田中豊<sup>1)</sup>, 大田希生<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup>富山市科学文化センター, <sup>2)</sup>東京大学大学院,  
<sup>3)</sup>東京医科歯科大学, <sup>4)</sup>国立科学博物館,  
<sup>5)</sup>北陸水中映像

Stranding records of cetaceans from the  
coasts of Toyama Prefecture, Toyama Bay,  
during the year 2004.

Namb H., Tajima Y., Arai K., Yamada T. K.,  
Tanaka Y. and Ota M.

富山湾 (石川県側及び富山県側) では、これまで約  
13種の鯨類がストランディング及び目撃により記録さ  
れている (佐野, 1999 ; 斎藤, 1999 ; 南部他, 2002,  
2003, 2004 ; 南部他, 2003, 2004)。今回, 2004年に  
富山湾 (富山県側) で確認した3例の鯨類について報  
告する。

富山湾で確認された鯨類

2004年の富山湾での鯨類の確認状況等は下記の通り  
であり, 確認地点を図1に示す。

1. カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* メス  
マイルカ科 Delphinidae 図2



図2. 2004年4月11日, 魚津市沖で撮影されたカマイルカ (能登忠儀氏撮影)。左, 遊泳中。右, イルカの周辺で魚が飛び跳ねている。

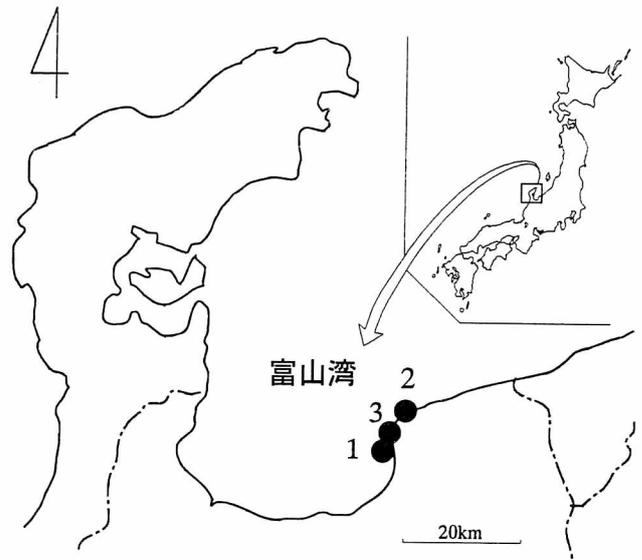


図1. 確認地点

数字は本文中の番号と対応 (1. 魚津市片貝川河口沖から  
経田, 2. 黒部市荒俣, 3. 黒部市立野)。

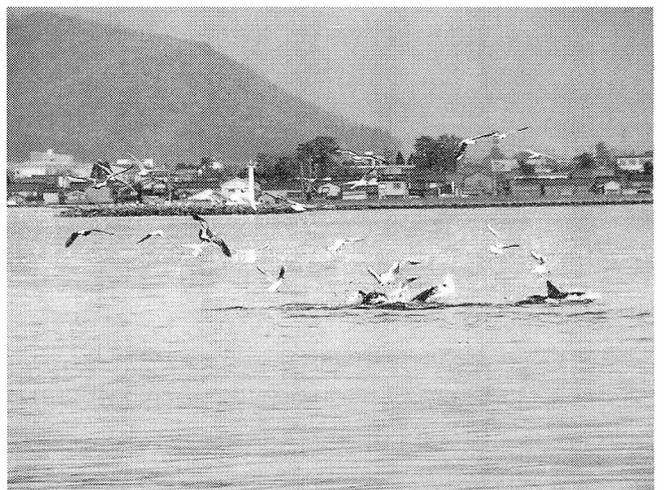
場所: 黒部市生地, 立野~魚津市青島の間

確認日: 2004年4月11日, 午後2時~4時30分

状況: 午後2時~4時30分, ボートでイカ釣りをしてい  
た際に, 黒部市生地, 立野から魚津市青島の間でイル  
カの群を目撃した。群れは数頭ずつからなり, 目撃し  
たのは10以上の群れであるが, もっといたと思われる。  
海上はべた風であった。

確認者: 能登忠儀氏 (黒部市)

2. ハナゴンドウ *Grampus griseus* オス  
マイルカ科 Delphinidae 図3



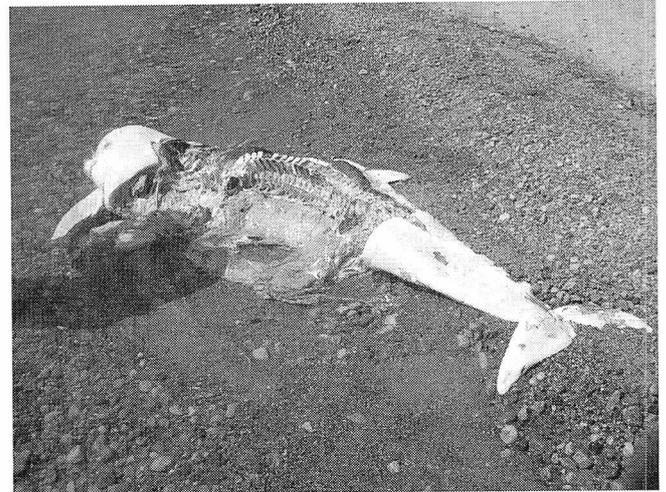


図3. 2004年6月15日，黒部市荒俣の海岸で発見されたハナゴンドウの漂着場所（左）と死体（右）（田中豊撮影）

場所：黒部市荒俣の海岸（黒部川河口付近左岸）

確認日：2004年6月15日

計測値：

体長2.55m（南部による現地計測）

状況：6月15日早朝（4時50分），黒部市荒俣の海岸にイルカが打ち上がっているのを発見した付近の住民が，地元新聞社に連絡。新聞社から黒部市役所への連絡により，同市市民環境課職員が現地確認して，南部へ10時頃連絡があった。

イルカは沖合に設置してあるテトラポッドの内側の波打ち際に横たわっていた。左の側腹部の筋肉が長さ124cmに渡り切り取られていたため，内蔵は飛び出していた。胸ビレ，背ビレ，尾ビレは残っていた。表皮は尾柄の近くに僅かに残っていた。

14時15分に科学文化センター職員が現地調査を行った後，黒部市環境課職員2名，建設課職員2名，科学文化センター職員2名の計6名でイルカをブルーシートでくるみ，約30～40mの引きずり，トラック（0.75トン）に積み込み，国立科学博物館へ搬送した。6月16日，同館で剖検が行われた。

現地調査：南部久男・田中豊

剖検：新井上巳（記録），梅谷綾子，山本智

計測値（cm）：

- ・上顎先端～尾ビレ正中切痕底 (252)
- ・上顎先端～口角後端 (18.6)
- ・上顎先端～噴気孔口中央部 (26.1)
- ・上顎先端～眼中央 (24.1)
- ・上顎先端～外耳孔開口部 (32)
- ・上顎先端～胸ビレ基部 (39.4)
- ・上顎先端～背ビレ先端 (141)
- ・上顎先端～背ビレ基部前端 (105)

- ・口角後端～眼裂前端 (8)
- ・眼裂後端～外耳孔 (8.1)
- ・噴気孔幅 (5.3)
- ・胸ビレ（左）基底長 (12.2)
- ・胸ビレ（左）最大幅 (12.4)
- ・胸ビレ（左）前縁長 (41.8)
- ・胸ビレ（左）後縁長 (31.5)
- ・背ビレ最大幅 (31.8)
- ・背ビレ高 (27)
- ・背ビレ後縁長 (28.7)
- ・背ビレ前縁長 (42)
- ・尾柄部幅 (6.2)
- ・尾ビレ前縁長（左） (35.7)
- ・尾ビレ前縁長（右） (37.5)
- ・尾ビレ幅 (57.8)
- ・尾柄部～尾ビレ正中切痕底 (25.5)
- ・尾ビレ正中切痕底～尾ビレ先端 (7.8)

体重：114Kg.

剖検概要：

<外貌所見>

高度に腐敗するため，表皮は殆ど剥離し，真皮（脂皮）及び皮下織が残っている部分は白色を呈す。左半身の脂皮，筋肉，内臓全般，左右骨盤骨と一部の肋骨は発見時から失われており，椎骨のほとんどが露出する。脂皮と筋肉の切断面は，刃物を用いて人為的にきりとられている。右側の頭部から尾部は脂皮が残存する。

<サンプルの保管>

表皮，筋肉，皮脂，全身骨格は国立科学博物館，筋肉は九州大学比較社会文化学府，筋肉，皮脂は愛媛大学沿岸環境科学研究センターで保管。

3. ハセイルカ? *Delphinus* sp. オス

マイルカ科 Delphinidae 図4

場所: 黒部市立野の海岸

確認日: 2004年5月30日 (日)

計測値: 体長約2.1m (現地計測)

状況: 黒部市立野のコンクリートブロックの海岸にイルカの死体が漂着しているのを住民が発見して, 黒部警察署へ届け出た。同警察署から同日午後1時頃黒部市役所へ連絡があり, 31日, 同市民環境課職員が, 魚津水族館へ連絡し, 同水族館から南部へ連絡があった。イルカは左側を上にして横たわり, 腸は飛び出していた。5月31日午後2~3時にかけて, 同市民環境課職員1名, 黒部消防署員2名, 大田, 南部の計5名で引き上げ, トラックに乗せ, 国立科学博物館へ搬送し, 6月1日同館で剖検が行われた。

現地調査: 南部久男

剖検: 新井上巳, 梅谷綾子, 田島木綿子 (記録), 山田格

計測値 (cm) :

- ・上顎先端~尾ビレ正中切痕底 (224.5)
- ・上顎先端~口角後端 (29.5)
- ・上顎先端~噴気孔口中央部 (32)
- ・上顎先端~眼中央 (33)
- ・上顎先端~胸ビレ基部 (50)
- ・上顎先端~背ビレ先端 (130)
- ・上顎先端~背ビレ基部前端 (99)
- ・上顎先端~臍中央 (146)
- ・上顎先端~吻基部 (15.5)
- ・口角後端~眼裂前端 (5.5)
- ・眼裂長径 (3)

- ・噴気孔幅 (2.8)
- ・胸ビレ(左)基底長(胸びれ先端欠ける) (11)
- ・胸ビレ (左) 最大幅 (11.5)
- ・胸ビレ (左) 前縁長 (32.5)
- ・胸ビレ (左) 後縁長 (23.5)
- ・背ビレ最大幅 (32)
- ・背ビレ高 (21)
- ・背ビレ後縁長 (20.5)
- ・背ビレ前縁長 (37)

脂皮の厚み (胴中央部) :

背12mm, 側面9mm

体重: 114Kg.

剖検概要:

<外貌所見>

外形: 表皮は尾ビレ先端などわずかしが残っていない。皮下組織が露出し, 全体的に白色を呈すが, マイルカまたはハセイルカの特徴である砂時計模様を思わせる模様がわずかに残る。腹側に80cmほどの裂孔があり (死後形成された可能性大), 同孔より腹腔臓器が露出する。腹部は高度に膨張する。陰茎は腫張し, 体壁より露出する。左右胸ビレは, 胸腔膨満のため, 立ち上がっている。胸ビレ, 背ビレは, 先端まで表皮健在。尾ビレは, 左右先端が自己融解し, 皮下組織の線維成分がひも状になり, ひらひらしている。

外傷: 小型ハクジラによると思われる咬傷痕が平行線状に5, 6本が一塊になり, 数カ所に認められる。ダルマザメによると思われる白色円形部を数個認めるが, そのほとんどは治癒している。

脂皮: 極めて薄い (乾燥及び自己融解のため)

筋肉: 全身スポンジ状態を呈し, 褪色する。

乳腺: 認められず。

<内臓所見>

死後変化が著しく, 病理学的な観察は行わなかった。胸腔: 各臓器の位置関係は著変なし。壁側胸膜と肺の臓側胸膜は全葉にわたり, 強固に付着する (癒着かどうかは断定できず)。横隔膜は健在。

腹腔: 腹部に形成された裂孔より, 臓器は露出する。特に腸管は著しい。確認できた臓器は, 肝臓, 左右腎臓, 全胃, 腸, 左右精巣, 心臓, 肺, 甲状腺, 腸, 管膜リンパ節であった。どの臓器も外形はとどめるが, 内部は高度に脆弱で, 赤色調が強く, 腐敗進行が著しい。観察する限りにおいて, 腫瘍, 潰瘍, 腫瘍などの著しい病変は認められない。

胃内容物: 大小のイカビーク及び頭足類のレンズ多数。魚類の耳石多数。

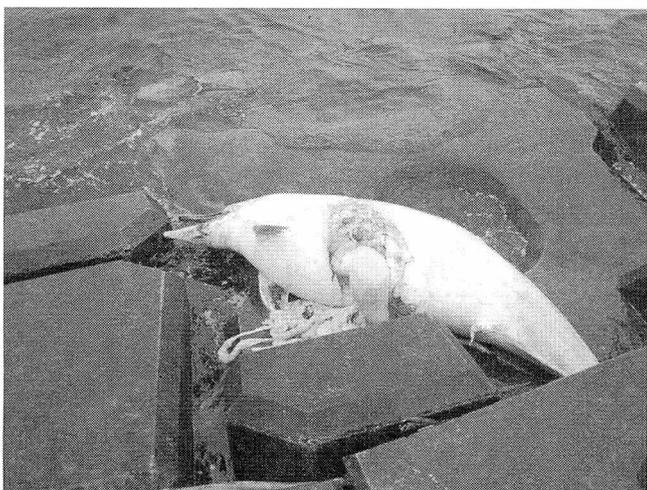


図4 2003年5月30日, 黒部市立野の海岸の海岸で発見されたハセイルカ?の漂着死体 (桐義輝氏撮影)。

腸内容物：白濁液体のみ。

精巢：左右とも非常に大きく、剖面から精液は認められず。

精巢上体：左右とも精管のところどころに白色粘液（精液）の貯留を認める。性的に成熟したオスと考えられる。

#### <頭部>

頭蓋洞：翼状洞内に寄生虫は認められず。

#### <サンプルの保管>

表皮，筋肉は九州大学比較社会文化学府，国立科学博物館動物研究部，日本鯨類研究所，富山市科学文化センターで，筋肉，皮脂，肝臓，腎臓，血液が愛媛大学沿岸環境科学研究センター，国立科学博物館，胃内容物，生殖腺，全身骨格は国立科学博物館，浅頸リンパ節は九州大学，肺門リンパ節は鳥取大学農学部で保管。

富山湾では，コククジラ科 *Eschrichtiidae* のコククジラ *Eschrichtius robustus*，ナガスクジラ科 *Balaenopteridae* のミンククジラ *Balaenoptera acutorostrata* 及びザトウクジラ *Megaptera novaeangliae*，アカボウクジラ科 *Ziphiidae* のツチクジラ *Berardius bairdii* 及びオウギハクジラ *Mesoplodon stejnegeri*，マイルカ科 *Delphinidae* のオキゴンドウ *Pseudorca crassidens*，ハナゴンドウ *Grampus griseus*，ハンドウイルカ *Tursiops truncatus*，カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*，ハセイルカ *Delphinus capensis*，ネズミイルカ科 *Phocoenidae* のネズミイルカ *Phocoena phocoena*，イシイルカ *Phocoenoides dalli*，スナメリ *Neophocaena phocaenoides* の13種が記録されている（佐野，1999；齋藤，1999；桶田，2000；南部他，2002，2003，2004；南部他，2003，2004）。今回確認された3種は既知種であった。

#### 謝辞

能登忠儀氏（黒部市）には，カマイルカの貴重な情報及び写真を提供していただき，日本鯨類研究所石川創氏には同写真の鑑定をしていただきました。黒部市市民環境課桐義輝氏，魚津水族博物館，黒部消防署，富山県水産漁港課の皆様には調査にご協力・ご指導をいただきました。剖検に当たっては，角田恒雄氏（国立科学博物館），梅谷綾子氏（麻布大学），山本智氏（九州大学）の多大なる助力を得ました。志波友子氏には作図をしていただきました。関係各位に厚くお礼申し上げます。

#### 参考文献

- 南部久男，稲村修，田島木綿子，倉持利明，山田格，2002. 富山湾における鯨類（Cetaceans）の記録（2001年）. 富山市科学文化センター研究報告，(25)：129-132.
- 南部久男，西岡満，田中豊，太田希生，2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録（2002年）. 富山市科学文化センター研究報告，(26)：145-147.
- 南部久男，西岡満，関谷伸一，山田格，太田希生，2004. 富山湾における鯨類の記録（2003年）. 富山市科学文化センター研究報告.(27)：75-78.
- 南部久男，山田格，石川創，2003. 富山湾におけるコククジラの記録. 日本海セトロジー研究会第14回大会発表要旨集.9.
- 南部久男，山田格，石川創，2004. 日本海のコククジラ回遊ルート. 日本海セトロジー研究会第14回大会発表要旨集.8.
- 桶田俊朗，2000. 能登に来遊したクジラ類Ⅱ.能登の海からのたより.(40):4-5.
- 佐野修，1999. 第1章石川県の海棲哺乳類.石川県の哺乳類.石川県哺乳類研究会編，pp.107-120.
- 齋藤豊，1999. 能登に来遊したクジラ類Ⅰ.能登の海からのたより.(39):4-5.